

閉塞性大腸癌に対する治療戦略およびその至適化に関する検討

当院の研究責任者 (所属)	吉川 祐輔 (栃木医療センター 外科)
他の研究機関および 各施設の研究責任者	なし
本研究の目的	閉塞性大腸癌は急性腹症としてしばしば遭遇する病態であり、その治療戦略において「術前腸管減圧」は「手術」と並び、きわめて重要な位置付けにあります。術前腸管減圧の方法としては、緊急人工肛門造設術、経肛門イレウス管といった古典的な方法から、最新の減圧デバイスである大腸ステントなどが挙げられます。これらの方針のいずれが閉塞性大腸癌に対して最も適するのか、状況によって選択/回避すべき方針があるのか、など明らかになっていない点も多いのが現状であり、この臨床的な疑問点を解決するため本研究が立案されました。
研究期間ならびに 研究対象となる期間	研究機関：許可日より2023年12月31日まで 研究対象となる期間：2012年1月から2023年12月31日まで
研究の方法 (使用する試料等)	<ul style="list-style-type: none"> ●対象患者 上記期間内に栃木医療センターで閉塞性大腸癌の治療を受けた患者 <ul style="list-style-type: none"> ●利用する情報 電子カルテに記載のある診療記録、検査データを利用する等
試料/情報の 他の研究機関への提供	なし
個人情報の取り扱い	利用する情報から氏名や住所等の患者さまを直接特定できる個人情報は削除致します。また、研究成果は学会等で発表を予定していますが、その際も患者さまを特定できる個人情報は利用しません。
本研究の資金源 (利益相反)	本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業等はありません。
お問い合わせ先	本研究への診療情報提供を希望されない方は、下記までご連絡ください。 電話：028-622-5241(代) 担当者：吉川 祐輔 (栃木医療センター 外科)

